

# 流域治水プロジェクトの充実について

令和4年 3月7日

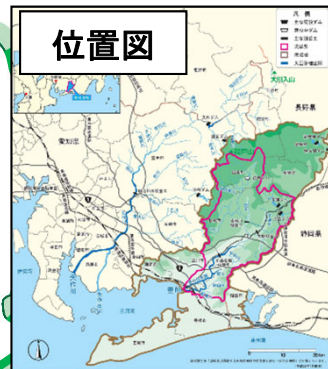
国土交通省 中部地方整備局

豊橋河川事務所

# 豊川水系流域治水プロジェクト【位置図】

R4.3.7 時点案

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

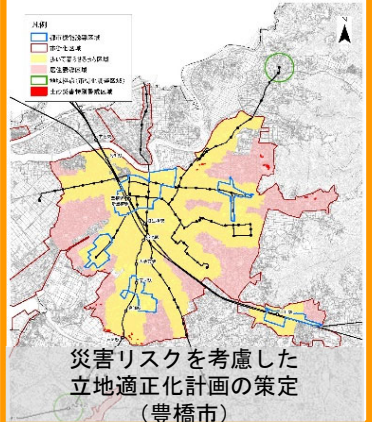


- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、豊川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 豊川流域は産業経済の根幹をなす交通の要衝であり、無堤区間のある霞堤地区を有するなど水害リスクが高い流域であることから、霞堤対策や浸水リスクが高い地域の「安全なまちづくり」に向けた立地適正化計画の推進、霞堤地区浸水被害軽減対策計画等のソフト対策の整備を実施する。
- これらの取組により、国管理区間においては、戦後最大の昭和44年8月洪水と同規模の洪水に対し、破堤等による甚大な被害を防止するとともに流域における浸水被害の軽減を図る。

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
  - ・河道掘削、堤防整備、樹木伐採、緊急浚渫推進事業
  - ・霞堤対策(小堤、支川背水対策)4箇所
  - ・設楽ダム建設
  - ・放水路の機能保全・最大活用検討
  - ・流出抑制対策  
(利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築、下水道(雨水)整備、砂防関係施設整備、流域貯留池事業、治山施設の整備、森林の間伐、森林整備・保全等)



- 被害対象を減少させるための対策
  - ・頻発・激化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」にむけた取組  
(立地適正化計画、土地利用規制・誘導(災害危険区域等))



- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
  - ・被害軽減対策  
(排水作業準備計画の検証、要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進、避難場所や経路に関する情報周知、土砂災害警戒区域等の指定・周知)
  - ・住民の主体的な避難行動を促す取組み  
(「みずから守るプログラム」の普及促進、防災講座・防災訓練、ハザードマップの作成・周知、住民の水害リスクに対する理解促進の取組、洪水プッシュ型情報配信、水害リスクライン配信、土砂災害リスク情報の現地表示、浸水予想図作成等)
  - ・ソフト対策のための整備  
(霞堤地区浸水被害軽減対策計画、水害リスクの高い区間の監視体制の整備、水害リスク空白域の解消等)



※大臣管理区間以外は、県・市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。  
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

凡例

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- 実績浸水範囲 (戦後最大の昭和44年8月洪水)
- 大臣管理区間



～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

## ●グリーンインフラの取り組み 『下流域の多様な生物の生息環境の再生と環境学習による地域振興』

- 湿地や干潟が少なくなった日本では、豊川河口の干潟やヨシ原は渡り鳥にとって貴重な場所・中継地となっている。また豊川の河口干潟は全国有数のアサリ稚貝の生息場所であり、豊川本川の特徴のひとつとなっている河畔林は、鳥の巣や、魚のかくれ場になるなど、生物の集まる豊かな自然環境となっている。
- 豊川河口域の減少した干潟を再生することにより、多様な生態系の回復を図るため、令和10年度までにアサリやハマグリ等の底生生物が生息できる河川環境の再生や、環境学習・自然体験の場の創出など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。
- 豊川が本来有していたヨシ原を再生することにより、多様な生態系の回復を図るため、令和10年度までにオオヨシキリ等の鳥類が生息できる河川環境や自然河岸のある景観の再生など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



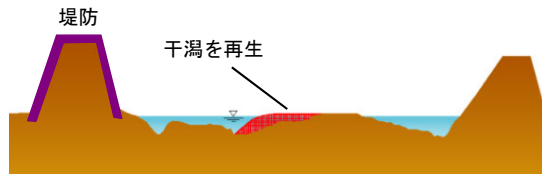
河口干潟を利用した生物観察会

- 自然環境の保全・復元などの自然再生  
干潟再生、ヨシ原再生
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み  
環境学習、自然観察



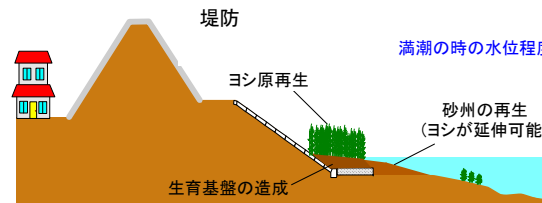
### 干潟再生

- ・ 砂を投入して干潟を造成し、渡り鳥やアサリ等貝類など多様な生物が生息しやすい環境となります。



### ヨシ原

- ・ 水際のヨシ原を再生し、オオヨシキリなど多様な生物が生息しやすい環境になります。



# 豊川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

● 豊川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

**【短期】**

- ・氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、設楽ダム建設や霞堤対策(小堤、支川背水対策)、緊急浚渫推進事業等により、豊川下流域の浸水深・浸水面積の減少を図る。
- ・被害対象を減少させるための対策として、災害リスクの高い地域を抽出・分析し、**立地適正化計画**に基づいた**防災指針**を策定する。
- ・被害の軽減、早期復旧・復興のための対策として、要配慮者施設避難確保計画の作成促進、「みずから守るプログラム」の普及促進等のソフト対策を推進する。
- ・霞堤地区浸水被害軽減対策協議会と協同し、水害リスクの高い区間の監視体制の整備等を実施する。霞堤地区の浸水被害軽減を図る。

**【中長期】**

- ・短期に引き続き、直轄管理区間・指定管理区間において河道掘削・堤防整備、樹木伐採等を実施し、中下流域の浸水被害解消を図る。
- ・防災指針等を踏まえ、構成員が一体となり災害リスクの低い地域への居住誘導を推進する。
- ・さらに、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策についても引き続き実施し、流域全体の安全度向上を図る。

**【ロードマップ】** ※スケジュールは、今後の事業進捗によって変更となる場合があります。 ※各対策による実施主体は、代表的な市町名を記載しています。



**【事業費 (R2年度以降の残事業費)】**

■ 河川対策  
全体事業費 約1,705億円 ※1  
対策内容 河道掘削 設楽ダム建設 小堤整備 等

■ 下水道対策  
全体事業費 約151億円 ※2  
対策内容 下水道等の排水施設整備

※1:直轄及び各圏域の河川整備計画の残事業費を記載  
※2:各市町における下水道事業計画の残事業費を記載



# 豊川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

(素案)  
※本資料は調整中のものであり、今後変更が生じる可能性がある。

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

<p><b>集計中</b></p> <p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備率</p>  <p>整備率 ○○% (令和7年度末時点)</p>	<p><b>集計中</b></p> <p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>○○市町村 (令和○年度○月時点)</p>	<p><b>集計中</b></p> <p>流出抑制対策の実施</p>  <p>○○施設 (令和○年度○月時点)</p>	<p><b>集計中</b></p> <p>山地の保水機能向上・土砂・流木対策</p>  <p>治水対策・森林整備 ○○箇所 (令和○年○月時点) 砂防事業による保全箇所 ○○施設 (令和○年○月時点)</p>	<p><b>集計中</b></p> <p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>○○市町村 (令和○年○月時点)</p>	<p><b>集計中</b></p> <p>水害リスク情報の提供</p>  <p>洪水浸水想定 ○○河川 (令和○年○月時点) 内水浸水想定 ○○団体 (令和○年○月時点)</p>	<p><b>集計中</b></p> <p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 ○○施設 (令和○年○月時点) 個別避難計画 ○○団体 (令和○年○月時点)</p>
---	---	--	---	---	--	---

## 氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策



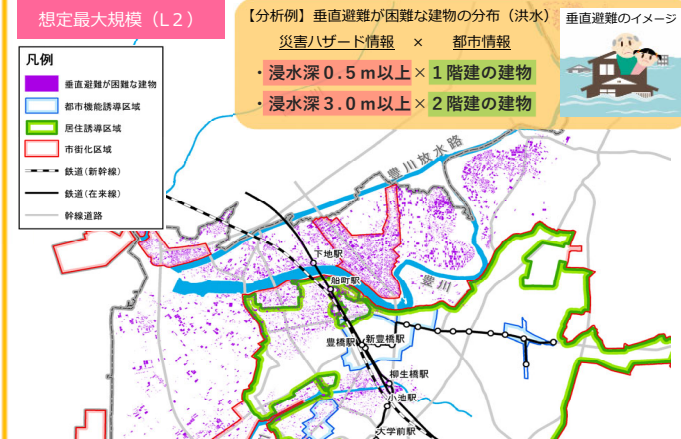
### ○流域貯留浸透事業(豊川市)

- 下水道事業の一環として新規の調整池(麻生田調整池)を整備し、流出抑制を図る。
- 既設の調整池(当古調整池)を改良し、貯留・浸透能力の強化。

#### 【令和3年度実績】

堤体造成工、舗装工などを実施。(麻生田調整池)

## 被害対象を減少させるための対策



### ○立地適正化計画における「防災指針」の策定(豊橋市)

- 災害ハザード情報と都市情報を重ね合わせ、都市の防災上の課題を抽出。
- 抽出した課題を踏まえ、「回避」と「低減」を基本に具体的な取り組み内容を検討。
- 土地利用をはじめハード・ソフト対策を組み合わせ、都市の安全性を高め、「住民の命と暮らしを守る、安全・安心を兼ね備えたまち」を目指し、有識者の意見を踏まえ防災指針を策定。

#### 【令和3年度実績】

都市計画審議会に中間報告(R4.2)

## 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

区分	カテゴリ	No.	内 容	事業主体	実施する目標期間			進捗状況
					第1期 (令和3年度内 10/31まで)	第2期 (令和4年度内 3/31まで)	R3 第3期 (令和5年度内 3/31まで)	
I 情報提供 (雨天時)	ソフト対策	1	浸水浸水水位等の設定	国土交通省	(策定)	(策定)	(実施済)	実施済
		2	CCTVカメラ・観音水位計等の設置	国土交通省	(計画)	(計画)	(実施済)	実施済
		3	情報の配信やアプリによるメールの配信	国土交通省・豊橋市・豊川市	(開発・試験運用)	(運用)	(実施済)	実施済
		4	街中の露地地区の浸水状況把握	豊橋市・豊川市	(試験運用)	(計画)	(実施済)	実施済
II 情報提供 (平常時)	ソフト対策	5	浸水案内看板等の設置	愛知県・豊橋市・豊川市	(策定)	(計画)	(実施済)	実施済
		6	時系列の浸水想定区域の作成と提供	国土交通省	(作成・提供)	(計画)	(実施済)	実施済
		7	ハザードマップの作成・公開	豊橋市・豊川市	(作成・公開)	(計画)	(実施済)	実施済
III 自助・共助・公助による防災対策	ソフト対策	8	防災情報の発信(出前講座の実施)	国土交通省・豊橋市・豊川市	(実施済)	(実施済)	(実施済)	実施済
		9	情報伝達訓練の実施	国土交通省・豊橋市・豊川市	(実施済)	(実施済)	(実施済)	実施済
IV 他の事業主体との連携	ソフト対策	10	農機具の保管場や住民の一時避難場所の確保(土砂対策)	国土交通省・豊橋市・豊川市	(ハザードマップへの反映)	(計画)	(実施済)	運用中
		11	建築確認申請時の指導	豊橋市・豊川市	(実施済)	(実施済)	(実施済)	実施済
↑対策	↓小 域	12	小域及び関連施設等の設置(排水ポンプ等含む)	国土交通省	(用地・設計)	(小域及び施設等の設置)	(実施済)	実施中

### ○霞堤地区浸水被害軽減対策計画(愛知県、豊橋市、豊川市、豊橋河川事務所等)

- 豊川霞堤地区における浸水被害の軽減を図るため、平成28年に対策計画を策定。
- 霞地区内の浸水状況等の情報提供などのソフト対策や、浸水頻度・浸水面積・浸水時間を軽減することができるハード対策を実施。
- 定期的に進捗管理を行い、効率的かつ効果的な浸水被害軽減を目指す。

#### 【令和3年度実績】

作業部会(R3.6)、地元説明会(R3.9)、協議会(R4.1)に実施。